

◆◆◆英語◆◆◆

■今日から「イングリッシュ・ウィーク」。

ねらいは、英語に慣れ親しむこと。

この期間はそれぞれの教室で、

▶朝の放送 ▶教室での朝・帰りの挨拶

▶ほめ言葉 ▶学習はじめと終わりの号令

などを英語で行うようにしています。

右の写真は外国語ルーム。

3年生の子どもたちがALTのアフィア先生に、

「自分たちのオリジナルサンドイッチ」を英語で紹介しているところです。



■私が子どもころ、昭和の時代と比べると今は外国語や外国語の方がずいぶん身近になりました。何ととっても南風小の校歌には英語の歌詞がありますものね。

そして、英語の授業もずいぶん変わってきました。

私が習ったのは、単語や文法をひらすら覚えて、先生の「リピート・アフター・ミー」に必死でついていく、というもの。結果、私の英語力は…ちっとも高まっていません。

みなかぜ こゑ すこ へ がほ つび あさ おか
1 南風の声 健やかに 笑顔で集う 朝の丘
south wind's smiling face
あか のび りんかぜ ゐんかぜ しやう がく せい
明るく伸びようわれら 南風 南風小学生

■この原因は、私の努力不足だけではなくて英語の授業の在り方にもあったようです。それで今、私たちはこんな考え方で英語の授業づくりをすすめています。

英語は相手とつながるための「ツール」。

あなたに伝えたい、わかってほしい。あなたの話を聞きたい、分かってほしいという本気の思いや願いがあるからこそ、英語を使って伝え、英語を聞こうとする。

思いや願いがなく、英単語や文法を「形式的」に教え込んでも、本物の英語の力は育たない。だから、英語の授業ではまず、子どもたちの心に伝えたい思いや願いが生まれるように準備し働きかける。そうして、子どもが伝え、聞くときに必要となる英語の言葉を与えていく。